

# ヴェルヌ『グラント船長の子供たち』上巻のメモ

takaidos

*Les Enfants du capitaine Gran* “In Search of the Castaways”  
(A Romantic Narrative of the Loss of Captain Grant of the  
Brig Britannia and of the Adventures of His Children and  
Friends)

ジュール・ヴェルヌ(1828-1905)。  
1868年(ヴェルヌ40歳)発行。

大久保和郎・訳。  
1968年発行(2004年復刊)。

『海底二万マイル』と『神秘の島』の間を繋ぐ名作らしい。

児童図書に分類されているが、本筋以外に豊富な博物誌、その土地の地誌や歴史的経緯(原地民とヨーロッパの関わり)など盛り込んであって非常な労作になっている。  
読み繋げるのに根気が要る。

行方不明のハリー・グラント船長たちを探して、スコットランドから出発して南緯37度線上のパタゴニア(アルゼンチンとチリ)、オーストラリア南部、ニュージーランド北の島を訪れ、そして最後は幻の島に立ち寄る。

第2部からはドラマが動くがやはりデュマのような展開になり読む方も登場人物といっしょに(?)非常な労苦を伴う。

読後感は爽快。  
山登りから帰って来てひと風呂浴びたような気分になる。

翻訳について。  
訳として選ぶ言葉を間違えている、気になる言葉、普段使わない言葉、漢字を選んでいることがある。

★★★★

<目次>

第1部

1. バランス・フィッシュ
2. 三つの記憶
3. マルカム・カースル
4. レイディ・グレナヴァンの提案
5. <ダンカン>の出版
6. 第六号船室の乗客
7. ジャック・パガネルはどこから来てどこへいくか?
8. 正直者がまた一人
9. マジェラン海峡
10. 南緯三十七度
11. チリ横断
12. 高度三六〇〇メートル
13. コルディリエーラを降りる
14. 天佑の銃声一発
15. ジャック・パガネルのスペイン語
16. リオ・コロラド
17. パンパス
18. 水場を求めて
19. 赤狼
20. アルゼンチンの平原
21. インディペンデンシア砦
22. 氾濫
23. 島の生活をする
24. 島の生活のつづき
25. 火と水のあいだ
26. 大西洋

## 第二部

1. 船に帰る
2. トリスタン・デ・クーニャ
3. アムステルダム島
4. ジャック・パガネルとマクナブズ少佐の賭け
5. インド洋の怒り
6. ベルヌーイ岬
7. エアトン
8. 出発
9. ヴィクトリア州
10. ウィメラ・リバー
11. バークとスチュアート

(下巻に続く)

### <登場人物>

エドワード・グレナヴァン:スコットランド名門。ハイランダー。マルカム城城主。マルカムの領主、ラス村の殿様。  
レディ・ヘレナ:グレナヴァン夫人。スコットランド人。大旅行家ウィリアム・タフネルの娘。  
マクナブズ:少佐。グレナヴァンの従兄弟。

メアリ・グラント:ハリー・グラント船長の娘、16歳。  
ロバート・グラント:同・息子。12歳。

ジョン・マングルズ:ダンカン号の船長。30歳。  
トム・オースティン:ダンカン号の老練な航海士。  
ミスター・オルビネット:ダンカン号のコック。  
ミセス・オルビネット:ヘレナの侍女。  
タルカーヴ:グレナヴァンが南アメリカで雇った案内人。  
ジャック・パガネル:パリ地理学会書記。フランス人。40歳。  
ウィルソン:屈強な航海士。スコットランド人。  
マルレディ:ボクシング経験ありの航海士。スコットランド人。

カタパス:チリ人のラバ挽きの頭。ペオン(案内人)×2と少年(12)が助手。  
タルカーヴ:パンパスの案内人。パタゴンを着ている。銃の名手。  
タウカ:タルカーヴの野生馬。

パルシャップ:フランス人。1828年アルゼンチンのラ・プラタ川下流域に植民しインデペンデンシア砦を築いた。  
アルシド・ドルビニー:地理学者。パルシャップを助けた。  
マヌエル・イファラゲレ:軍曹、50歳。フランス系バスク人。砦建設の折からパルシャップを助けた。子だくさん。

パディ・オムーア:アイルランドからオーストラリア南部に移民として来て農場を拓いて成功した。  
トム・エアトン:グラント船長の『ブリタニア』号のクォーターマスター(操舵手)。一級水夫。45歳。船が沈没する前に陸に投げ出され、その後パデュに雇われた。

サム・マチェル:ストック・キーパー。オーストラリア・ヴィクトリア州横断中に会った家畜を率いる男。牛1000頭、羊11000頭、馬75頭を20匹の犬と30人の男で1日16km歩かせ三ヵ月かかってポートランド・ベイに行く途中だった。

### <あらすじ>

1864年7月26日。  
エドワード・グレナヴァンの乗ったダンカン号は海上でシュモクザメを捕まえたが、その体内から空き瓶入った手紙を見つける。  
ドイツ語、フランス語、英語で書かれた手紙の内容は、1862年ブリ

タニア号がパタゴニア近海で難破しグラント船長らがインディオの住む土地に上陸することになったという。

グラント船長の子供メアリとロバートがグレナヴァンの報告を見て、マラカス城を訪れる。  
帰城したグレナヴァンはイギリス政府・海軍に救援を要請するが拒絶されたという。  
ヘレナはダンカン号でグラント船長たちを捜索しに行こうと言い早速出発する。

8月24日:グラスゴウの聖マンガウ教会でお祈り。

8月25日:出航。ダンバートン岸壁、クライド湾を出てカンタイア・マル通過、ノース海峡を出る。

パリ地理学会書記のパガネルが部屋から起きて出て来て、乗った船が間違いだったことに気付く。  
グレナヴァンが自分たちはチリに遭難者の捜索に行くのでマデイラ島で降ろすという、パガネルはあそこにはもう見るべきものがないのでカナリア諸島にしてくれという。

8月30日:マデイラ諸島。

8月31日:テネリフ島の高さ3300メートルの山を一望する。

9月02日:北回帰線通過、天候が悪くなる。

9月03日:カボ=ヴェルデ諸島のヴィラ=プライア湾で石炭を積み込む。

9月07日:赤道通過。

9月15日:南回帰線通過、マゼラン海峡へ。

9月25日:マゼラン海峡沖。ピラレス岬。

10月02日?:タルカウアノ湾。

10月06日?:タルカウアノ港。

10月13日?:パガネル、グラント船長はインディオに捕まっていると推理。

10月14日:グラント船長ら7人の捜索隊出発。10頭のラバ隊とラバ挽き4名。アラウコ(アラウカニア州)の町で宿泊。

※モルーチョ族。スペインに抵抗。

10月15日:アラウコ町から東へ行き午後4時に桃金嬢(てんにんか)の茂みで野営。

10月16日:

植物:アマリリス、木本のスミレ、フルスキア、朝鮮朝顔、金色の花咲くサボテン。

動物:オセロット山猫。

野鳥:アオサギ、フクロウ、鶺鴒、カイツブリ。

特記:グアソ(インディオとスペイン人の退化した混血児)。目撃情報なし。

10月17日:

ウンベルーロス・アンヘレス街道、ロハの町。大コルディリエーラ(アンデス山脈)の前衛を成す山脈(シエラ)の麓で野営。

10月18日:

ラス・レハス谷→リャノス→バリエナールの砦→行き止まりでラバ隊を帰してアントゥーコの峠へ徒歩で行き、クレヴァスや雪の中、疲労困憊で小屋(カスーチャ)に到着。

高度3570m。

アントゥーコ火山を見下ろせる高さ。

植物:リャノス(熱帯草原)、禾本科植物、サボテン。リャレットタ。

動物:リャマ、チンチラ、アルパカ、ビクーニャ(ヴィゴーニュ)、グワナコ(草食動物)。

10月19日:

午前2時地震発生。小屋ごと斜面を滑り落ちロバートの姿が見えなくなる。

10月20日:

コンドル、ロバートを掴んで飛翔。

タルカーヴ(パタゴンの原住民インディオ)がコンドルを撃ち落としロバート救われる。

野鳥:コンドル、ダチョウ、イサカ(キジバト)、黄色いレンジャク、渡バト、スズメ、チンゴロ(アメリカ雀)、イルゲロ、モンヒータ(小坊主鳥)

10月21日:  
タルカーヴの案内でインディオの部落で馬7頭と食糧を買う。

10月22日:  
タルカーヴを案内人としてアルゼンチンのパンパス平原を東へ向かう。  
メダーノ(砂丘)→ネウケム川のほとりで野営。

10月23日:  
パンペーロ(寒風)。

10月24日:タルカウアノを出発して10日目。  
カルメン街道でタルカーヴに旅の目的を伝える。  
タルカーヴからグラント船長らしきヨーロッパ人が酋長カルフルカの奴隷になっているらしいと聞く。

10月25日:  
トラベシーア(空白地帯)  
植物:白いイナゴ豆、テレビンの木、チャナレスの木、山エニシダの木。

10月26日:  
コブ・レウヴ(大河)～海に近づくにつれて水量が減る。  
リオ・コロラド到着。

10月27日:  
特記事項なし。

10月28日:  
特記事項なし。  
地形:カナダ(湿地帯)、エステーロ(沼沢)、ウレ・ランケム(苦い湖)。  
動物:アルワート(オマキザル)、野犬。

10月29日:  
パンパス草原は乾季だった。  
植物:ネムノキ科植物(パンパス西部)、パーハ・ブラーバ、ギグネリウム・アルゲンテウム、牧草(東部)。  
動物:チョリナ(マムシ)。  
飲み物:マテ茶。  
動物たちの白骨地帯を通過。タルカーヴ、雷で死んだと話す。気温30℃。  
夕刻、牧舎(ランチョ)のそばに馬を止める。

10月30日:  
炎暑と靄。見渡す限り何も無い平原。  
植物:禾本科植物、痩せたゴボウ、巨大アザミ、チャナレス、有刺植物。  
煙の臭い。インディオによる野焼き。  
水不足に陥る。  
48kmの行程のあとに野営。  
昆虫:蚊、ブヨ。

10月31日:  
暑熱、熱風(シムーン)。  
インディオの一団ガウチョと遭遇。皮製の服、槍、短刀、石投げ器、ボラス、ラソ。  
マクナブズ少佐とパガネル、ガウチョの解釈で言い争い。  
水を期待していたサリナス湖が枯れていた。

タルカーヴ、ふた手に分かれて水を探すことを提案。  
グレナヴァン、タルカーヴ、ロバート→偵察隊。動ける馬でグワミニ河(130km先)を偵察。

パガネル、マクナブズ、オースティン、ウィルソン、マルレディ→待機。  
グワミニ河に水があればその場で待機、無ければ待機組を迎えに  
戻り、全員で75km南下してシエラ・ベンターナ支脈の始点を目指す  
。

偵察隊→デシエルト・デ・ラス・サリナス平原。バレーロス(塩分の  
多い土地)。  
植物:ネムノキ科植物、クラ・マンメル。

野鳥:ティナモウス(赤シャコ)、黒雷鳥、テルモル(千鳥)、黄色のク  
イナ、緑のバン、ナンドゥー(ダチョウ)。  
動物:アルマディリョ(アルマジロ)、野猪(ペカリ)。アグワラ(  
赤狼)。  
飲料:アスクウィボー(生命の泉/ウイスキー)。

夜、赤狼の群れが襲って来て、火薬が無くなり、ロバートがタウカ  
に乗って狼たちをひきつけて助かる。

11月01日、革袋に水を詰めて出発。  
11月02日、特記事項なし。  
11月03日、特記事項なし。  
ブエノスアイレス州の境で野営。  
タルカウアノ湾出発後22日間で720km、全行程の3分の2に達した。  
気温は下がって平均17℃。  
アルゼンチン平原にはたくさん居るはずのインディオ住民たちの姿  
が見えなかった。  
96km先のインデペンデンシア砦(シエラ・タンディル/タンディル  
山脈)へ向かう。  
シエラ・タパルケム(タパルケム山脈)の麓で野営。

野鳥:タンガラ(フウキンチョウ)、ヒバリ、戦闘的なムクドリ、ア  
ンヌービ、フラミンゴ(学名フェニコプテール)。

11月04日、3人のガウチョ(インディオの農民)。  
パガネル、彼らはアラビア人より人相が悪い、という。

11月05日、酋長(カシケ)カトリエルの宿营地跡で野営。

11月06日、樹木が見られるようになる。  
建物:エスタンシア(畜類の飼養のための大きな建物)とコラル(杭  
で囲った飼育場)、塩漬工場(サラデーロ/屠殺場)。  
植物:梅檀、桃の木、ポプラ、楊柳、アカシア~すべてヨーロッパ産  
。

野鳥:ウルブ(ハゲタカ)、アウラ。  
ロス・ウエノス河、チャパレオフ河を越える。

インデペンデンシア砦は村の中心にあった。  
4千人の住民が住んでいて、フランス系バスク人とイタリア人が多か  
った。  
このラ・プラタ河の下流域に最初に植民したのはフランス人で同国  
のパルシャップがインディオの攻撃から守るためにこの砦を作った  
。

宿屋の厩に馬を入れると子供たちの兵隊が出て来る。  
隊長のマヌエル・イファラグレ(50歳/フランス系バスク人)に歓迎さ  
れた。  
マヌエルは、パラグワイ人とブエノスアイレス人が戦争(内乱)を起  
こしていて、インディオの酋長たちは略奪のために北部に行ってい  
るという。

マヌエルに3人のイギリス人がインディオに捕えられたという話を聞  
いていないかと尋ねるが、捕まったのはイタリア人とフランス人の  
ふたりでイタリア人は殺されてフランス人は逃げたという。

一行は失望して『ダンカン』号と合流しに行くが、途中で川の氾濫

に遭い、高さ30メートル円周120メートルの影を落とすオンブーの木に取り付く。

タルカーブは馬のタウカといっしょに流される。

木の上で一行はグラント船長たちの居場所について話し合うが、パガネルは「オーストラリアだ!」と言う。

パガネルは星空を見上げてグレナヴァンとロバート少年に天体の講義をする。

すると今度は雷雲が来てオンブーの木の火が付き、水に逃れようとすると、カイマンがいることに気がつく。

木は倒れてカイマン1匹が上がって来るが、火の付いた枝で追い払う。

一行は火の付いたオンブーの倒木に乗って移動し始める。

オンブーを降りたあとはダンカン号との待合せ場所のコリエンテス岬を目指す。

11月12日、海岸に到着し『ダンカン』号と会う。アラウコラの町を出て1ヶ月、パタゴニアを踏破横断したのだった。

岬から9km先に停泊するダンカン号からボートが迎えに来て、タルカーブもいっしょに来るように誘うがタルカーブはこの地を離れることを拒む。

給与の受け取りも拒むので、グレナヴァンは妻の写真の入ったロケットを、パガネルは手持ちの地図を渡す。

7人の捜索隊はダンカン号に戻る。

ダンカン号は東へ向かう。

11月16日:心地よい西風。

11月17日:巨大な海藻に覆われた広い池のような海。サルガッソのようだった。

トリスタン・ダ・クーニャ島に到着。周囲2.7kmの島。

動物:アザラシ、クジラ。

人口:150人未満。

現地人とイギリス人やアメリカ人。

植物:テュセー(Arondiaceae科)、アセーヌ、木竜骨科の羊歯、灌木性植物、アンセリーヌ、苔、野生セロリ。

パガネル、カリュプソ伝説の話をする。

ボートでダンカン号でグラント船長を探して回るが見つからず。

アザラシ漁をして大量の油を得る。

野鳥:クロシャコ。

11月20日:夜、出航してアムステルダム島を目指す。

11月24日:アフリカ南端テーブル・マウンテンを観てケープ湾ケープタウンの港に錨を降ろす。補給。

12月06日、アムステルダム島に到着。

アムステルダム島(別名サン=ピエール島)とサン=ポール島。

人口3名。

高齢のフランス人ヴィオ氏と2人の黒白混血児。

動物:イノシシとペンギン。

グラント船長たちはここにもいなかった。

出航。5500km先のオーストラリア大陸へ向かう。

12月07日:

航海中、パガネルがオーストラリアに立ち寄ったヨーロッパ人の名前を50人挙げてみせるといふ。

マクナブズは自分のカービン銃をパガネルは望遠鏡を賭けるがパガネルが挙げた人名は優に50名を越えていた。

かわりにマクナブズがパガネルが知らないエピソードをひとつ話したらカービン銃を返してもらおうといい、パガネルがオーストラリアがフランスのものにならなかった理由を知らなかったのでカービン銃はマクナブズのもとに留まった。

野鳥:黒スワン(1797年過ぎに初めてヨーロッパ人は黒スワンの存在

を知った)。カエル。

12月15日:緯度37度線でベルヌーイ岬を目指していたが、オーストラリア沿岸部で暴風雨に襲われる。  
カタストロフィ岬に投錨。  
(カタストロフィ岬は南オーストラリア州の首都アデレードの港の近く。住民4万人。農民が多い。  
農産物:ブドウ、オレンジ。)

『ダンカン』号のスクリューは曲がってしまっていて修理がメルボルンで必要だった。

インベシティゲーター海峡、ボルダ岬、カンガルー島(脱走囚人の隠れ家)。

12月18日:  
エンカウンター湾の岸。

12月20日:  
ラペセード湾・ベルヌーイ岬。

ボートで上陸したグレナヴァンらは風車を見つけ、元アイルランド人パディの農場に行く。  
そこでお互いに自己紹介をしていると、そこにはグラント船長の『ブリタニア』号に乗っていた操舵手のエアトンがいたのだ。  
沈没前に陸に投げ出されたエアトンは船長らは死んだと思っていた。  
「生きていたとしたらこのオーストラリアの地以外にない」と言う

。エアトンは『ブリタニア』号出航前のロバートやメアリーらのこと覚えていた。

12月22日:グレナヴァンたちは牛車と馬で陸路でグラント船長の捜索をしながら東へ進み、トム・オースティンらは『ダンカン』号に乗って560km離れたメルボルンまで行き、船はそこで修理することにする。  
ヘレナとメアリ、オルビネットの台所は車室に入れられてエアトンが操る6頭の牛が引かせ、グレナヴァンらは馬に乗って進む。

12月23日:  
モスキートズ・プレーン(平原)を通過。蚊が多く刺される。  
レッド・ガム・ステーション(家畜の飼育場)通過。  
植物:アカシア、白ゴム、オリーブ、レモン、そよご、紫檀。

ヴィクトリア州アスプリーの行政教区(パリッシュ)に到着。  
2日で96km踏破。  
パガネルがヴィクトリア植民地の歴史や地形、生態について解説。  
ヨーロッパの学者たちは初めてこの地を見たときに驚くことばかりだった。  
例)  
カモノハシ、ハリモグラ、カンガルー、黒スワン、ツカツクリ、様々な鳥と鳴き声、巨大な草。  
パガネルはこの地の風は教化的という。

12月24日:  
ホワイト湖、Spring Plains。  
畜群をポートランドまで歩かせるストックキーパーのサム・マチュエルとすれ違う。

動物:ディンゴ、ハリモグラ。  
野鳥:エレモフィラ(胸黒雲雀)、ヒクイドリ。ジャビルドゥ(巨人鳥)。  
植物:アカザ科植物(ソーダの元)、アカシア、ミモザ、白ゴム。

12月25日:  
降誕祭でオルビネット(スチュワード)が料理を振る舞う。



12月26日:

パガネル→ロバート

「太陽は冬に地球に一番近づく。冬が寒いのは太陽光の角度が斜めだから。」

12月27日:

ウィメラ河の幅400メートルの浅瀬を渡るときに牛車の車体受けが折れたため、エアトン、蹄鉄工を呼びに行く。

パガネル。

オーストラリア探検隊の話を披露する。

アイルランド人の元将校ロバート・オハラ・バークは大陸縦断に失敗、ジョン・マクドナル・スチュアートは成功。

<メモ>

☒☒マルカム・カースル:Malcolm castleつまりマルカム城のこと。グレナヴァンの城。

☒☒カレドニア=スコットランドの旧称。

☒☒間違い

P.33の「ロバート・ハリー」は間違い。

誤)ロバート・ハリー。

正)ロバート・グラント。

P.49の「ミロード」。

誤)ミロード。

正)我が君、ご主人様など。

クォーター・マスター:quarter masterのことで操舵手。

☒☒ブリタニア号

船長:ハリー・グラント。

三本マスト。

☒☒ダンカン号

排水量210トン。17ノット。

二本マスト、160馬力の蒸気機関。

☒☒ラバ挽き

一日に一度だけの水で8時間に40kmを歩き154kgの荷物を担ぐ。

☒☒ポルトガル語? in パタゴニア

- ・リオ:河
- ・パンパス:アルゼンチンやチリに広がる温帯の大草原。
- ・バケアーノ:道案内。
- ・トルデリーア:部落。
- ・パソ:谷?
- ・ラマーダ:家畜用の囲い(三方が囲われている)。
- ・サルアテドール:追い剥ぎ。
- ・コラル:杭を巡らせた家畜用の大きな囲い。
- ・フォンダ:宿屋。
- ・レアド:領主。

☒☒オーストラリア

・スクウォッター:Squatter. 地にうづくまる人。家畜を飼養する人。

・セトラー:主に農業に従事する人。

☒☒エアトン

最初に会ったときに「自分は沈没直前にブリタニア号から浜辺に投げ出された」と言っている。

なぜ2年間ものあいだ、ブリタニア号の事故経緯についてイギリスに報告しなかったのか?

…という重要な一点においてすでに怪しい。

☒☒ことば

・ヴェルヌの異説？

風が人の気性や性格に影響を与える。。。

・パガネル→ロバート少年。オーストラリアのアレクサンダー山金  
鉱地帯で。

ロバート「オーストラリアというのは恵まれた国なんですね」

パガネル「産金国はいっこうに恵まれていないんだよ。

そういう国は怠け者の住民しか生み出さない。

決して遅しく勤勉な人は出て来ないんだ。

ブラジル、メキシコ、カリフォルニア、オーストラリアを見てご  
らん。

何よりも国に価値するのは、いいかね、それは鉄を産する国なんだ！

」

・イギリスとフランスの違い

パガネル

「イギリスが街を造ると将棋盤の目のようにしてしまうが、フラン  
ス人ならそうはしない。」

・パガネル

「学者の答えはだれも満足させないもの」

